

施策評価シート

施策等名称	文化財を学び、知る場の整備と充実	体系番号	0201020404
		主管課	文化財課

1 施策基本情報

現状と課題	茅野市には特別史跡尖石遺跡、2つの国宝「土偶」など日本を代表する文化財をはじめ、八ヶ岳山麓の豊かな自然のもと、悠久の歴史の中で生まれ、育まれ、守り伝えられてきた文化財があります。しかし、その重要性が市民に十分浸透しておらず、関心も決して高いと言えない状態です。これらの文化財を適切に収蔵・展示し、次世代に伝える場として、また、幅広い年齢層の市民が文化財を学び、知る場として、尖石縄文考古館などの施設の整備と充実を図る必要があります。八ヶ岳山麓の豊かな自然をいかした野外活動を通し、青少年の健全育成を目的に、尖石縄文考古館と一体的に管理している青少年自然の森の整備と充実も課題です。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	文化財の適切な収蔵・展示、来館者・来場者の安全確保などの環境整備はもとより、それぞれの施設の特徴をいかした展示会、講座、体験学習などの教育普及活動の充実と情報発信につとめることで、市民に文化財の重要性を伝え、来館者の増加を図ります。また、各施設の連携を図り、重層性のある文化財とこれらを育んだ八ヶ岳山麓の豊かな自然を一体的に整備・活用します。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2027年度目標値	2027年度目標値
①	尖石縄文考古館年間入館者数	年間入館者数	53824.00	60000.00	70000.00
				17000.00	20000.00
				11000.00	12000.00
②	八ヶ岳総合博物館年間入館者数	年間入館者数	13445.00	17000.00	20000.00
				11000.00	12000.00
③	神長官守矢史料館年間入館者数	年間入館者数	11493.00	11000.00	12000.00
				11000.00	12000.00

施策の柱 1	名称	尖石縄文考古館の充実	主管課	文化財課			
	詳細	茅野市の縄文文化・史跡を知る中核的な施設として、研究者はもとより、幅広い層の方々が訪れる施設を目指します。また、地域住民の学習支援や考古館活動の参加を支援する「参加・体験型」の施設を目指します。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	年間入館者数	年間入館者数(人)	53824.00	60000.00	1 考古館施設管理事業	実施
					70000.00	2 考古館運営事業	実施
	2	講座参加率	参加者数/定員数(%)	60.00	70.00	3 縄文教室事業	実施
					80.00	4 縄文を識る推進事業	実施
	3	縄文検定合格者数	合格者数(人)	2122.00	3500.00	5 資料整備事業	実施
					5000.00	6 尖石縄文文化賞事業	実施
	基本政策間連携						

施策の体系	施策の柱 2	名称	八ヶ岳総合博物館の充実	主管課	文化財課			
		詳細	失われつつある地域資料の収集・保管に努めるとともに、資料をいかした研究成果に基づく、研究・展示・活用の充実を図ります。					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1	収集資料数	収集資料数(点)	50000.00	51500.00	1 資料収集・保管事業	実施
						53000.00	2 市民研究員養成事業	実施
		2	市民研究員養成事業参加者数	市民研究員養成講座の参加者数(実質人数)	65.00	85.00	3 特別展事業	実施
						100.00	4	
		3	年間入館者数	年間入館者数(人)	13445.00	17000.00	5	
						20000.00	6	
		基本政策間連携						

施策の柱 3	名称	神長官守矢史料館の充実	主管課	文化財課			
	詳細	諏訪大社上社の祭祀の一端を担っていた神長官守矢家に伝えられてきた古文書や什器等の保護・保全、周辺整備を進めます。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	年間入館者数	年間入館者数(人)	11493.00	11000.00	1 守矢史料館展示事業	実施
					12000.00	2	
	2					3	
						4	
	3					5	
						6	
	基本政策間連携						

施策評価シート

施策等名称	文化財を学び、知る場の整備と充実	体系番号	0201020404
		主管課	文化財課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

施策の体系	施策の柱 4	名称	青少年自然の森の充実			主管課	文化財課	
		詳細	史跡及び尖石縄文考古館との連携強化を図り、縄文文化の要素を取り入れた様々な活動を提供し、青少年の生きる力を育てます。					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1 年間利用者数	年間の利用者数(人)	6381.00	7000.00 7600.00	1 青少年自然の森管理運営事業	実施	
					2			
					3			
					4			
					5			
					6			
	基本政策間連携							
	施策の柱 5	名称				主管課		
		詳細						
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1				1		
					2			
				3				
				4				
				5				
				6				
基本政策間連携								
施策の柱 6	名称				主管課			
	詳細							
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分		
	1				1			
				2				
				3				
				4				
				5				
				6				
基本政策間連携								
施策の柱 7	名称				主管課			
	詳細							
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分		
	1				1			
				2				
				3				
				4				
				5				
				6				
基本政策間連携								

施策等名称	文化財を学び、知る場の整備と充実	体系番号	0201020404
		主管課	文化財課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	尖石縄文考古館年間入館者数	53824.00	56953.00	54434.00	26366.00		
1		60000.00	94.92	90.72	43.94	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	前年度は八ヶ岳JOMONライフフェスティバル期間中無料入館の影響が多かったが、2018年度は無料入館がなかったことで減少した。					
	2019年度	計画策定時の数値は上回っているが、台風の影響等により前年度比では2500人の減少となった。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2か月間の休館等により入館者数が低下したため。					
	2021年度						
	2022年度						
施策	八ヶ岳総合博物館年間入館者数	13445.00	17,715	16529.00	7787.00		
2		17500.00	101.23	94.45	44.50	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2015年度・12,150人、2016年度・13,445人(モバイルプラネタリウム導入)、2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)					
	2019年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2016年度・13,445人(モバイルプラネタリウム導入)、2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)、2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)					
	2020年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2017年度・16,520人(雨天予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)、2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)、2020年度・7,787人(新型コロナウイルス流行による入館者)					
	2021年度						
	2022年度						
施策	神長官守矢史料館年間入館者数	11493.00	11183.00	11412.00	7036.00		
3		12000.00	93.19	95.10	58.63	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	諏訪大社を中心とする信仰に対する世間の関心が高まっており、入館者が増加したと思われる。					
	2019年度	諏訪大社を中心とする信仰に対する世間の関心が近年高まっており、昨年度に引き続き入館者が増加したと思われる。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2か月間の休館等により入館者数が低下したため。					
	2021年度						
	2022年度						
柱1	年間入館者数	53824.00	56953.00	54434.00	26366.00		
1		60000.00	94.92	90.72	43.94	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	前年度は八ヶ岳JOMONライフフェスティバル期間中無料入館の影響が多かったが、2018年度は無料入館がなかったことで減少した。					
	2019年度	計画策定時の数値は上回っているが、台風の影響等により前年度比では2500人の減少となった。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2か月間の休館等により入館者数が低下したため。					
	2021年度						
	2022年度						
柱1	講演会「縄文ゼミナール」参加率	70.00	70.00	71.00	81.67		
2		80.00	87.50	88.75	102.09	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	設定したテーマが奏功し、前年度参加率67.5%に対して2018年度は参加率が70.0%で微増となった。					
	2019年度	引き続き人気のある講座を開催しつつ、参加者アンケート記載内容を参考に講座内容を改変した。参加率は71%となった。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を減らして申込予約制にした結果、充足率は上がった。					
	2021年度						
	2022年度						
柱1	縄文検定合格者数	2122.00	2838.00	3085.00	0.00		
3		3500.00	81.09	88.14	0.00	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	市内の小中学校の受検は縄文科もあり堅調であるが、2016年度以降一般受検者が低調であり、伸び悩んでいる。					
	2019年度	市内の小中学校の受検は縄文科もあり堅調であるが、2019年度も一般受検者が低調であった。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。					
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	文化財を学び、知る場の整備と充実	体系番号	0201020404
		所管課	文化財課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
柱2 1	収集資料数	50000.00	50282.00	52417.00	56695.00		
		51500.00	97.63	101.78	110.09	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	総合博物館の収集資料は、人文科学資料、自然科学資料ともに多岐にわたるが、植物などの標本資料は充実しているとはいえない。市民研究員養成事業と連動させ、資料収集を進めていく。					
	2019年度	旧民俗資料館時代からの古文書の整理を進めてきたが、今年度集中して行い、2,135点の台帳化が進んだ。自然科学資料は引き続き資料収集を行っている。					
	2020年度	引き続き古文書などの収集資料整理や、新たに寄贈された自然系資料など4,278点を台帳化した。					
	2021年度						
	2022年度						
柱2 2	市民研究員養成事業参加者数	65.00	79.00	95.00	105.00		
		85.00	92.94	111.76	123.53	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	市民研究員養成事業第2期開始時点、2016年、5グループ・参加者65人。その後、5グループで9人の加入があり、2018年度、語り伝承グループが発足、参加者5人。市民(市民研究員)同士の交流や博物館活動発表展の効果による。					
	2019年度	広報や、市の催事など市民研究員を紹介する機会があれば掲載や告知をし、また、市民研究員の紹介で、79人から95人に増加した。					
	2020年度	広報や、市の催事など市民研究員を紹介する機会があれば掲載や告知をし、また、市民研究員の紹介で、95人から105人に増加した。					
	2021年度						
	2022年度						
柱2 3	年間入館者数	13445.00	17715.00	16529.00	7787.00		
		17500.00	101.23	94.45	44.50	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2015年度・12,150人、2016年度・13,445人(モバイルプラネタリウム導入)、2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)					
	2019年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2016年度・13,445人(モバイルプラネタリウム導入)、2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)、2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)					
	2020年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2017年度・16,520人(雨天予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)、2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)、2020年度・7,787人(新型コロナウイルス流行による入館者)					
	2021年度						
	2022年度						
柱3 1	年間入館者数	11493.00	11183.00	11412.00	7036.00		
		12000.00	93.19	95.10	58.63	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	諏訪大社を中心とする信仰に対する世間の関心が高まっており、入館者が増加したと思われる。					
	2019年度	諏訪大社を中心とする信仰に対する世間の関心が高まっており、昨年度に引き続き入館者が増加したと思われる。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2か月間の休館等により入館者数が低下したため。					
	2021年度						
	2022年度						
柱4 1	年間利用者数	6381.00	5300.00	5048.00	1274.00		
		7000.00	75.71	72.11	18.20	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	郡内学校の利用校数の低下と、台風の影響による数日間の休館のため、利用者数が低下した。					
	2019年度	郡内学校の利用校数が引き続き計画策定時よりも少なく、少子化による児童数の減少もあり、利用者数が伸び悩んでいる。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症のため、利用者が激減した。					
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	文化財を学び、知る場の整備と充実	体系番号	0201020404
		主管課	文化財課

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)		2019年 (前年度比)		2020年 (前年度比)		2021年 (前年度比)		2022年 (前年度比)		
投資額	事業費(円)	83,879,776		79,879,375	0.95	79,593,933	1.00	104,953,000	1.32			
	うち一財(円)	64,323,134		60,327,777	0.94	68,572,481	1.14	85,833,000	1.25			
	増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以上 の場合に 記載)											
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調						
総合評価	主な取組内容や成果	各施設では、収蔵資料の特徴を最大限にいかした企画展をはじめ、子ども又は専門家向けの工夫を凝らした事業が行なわれた。市民研究員や市民ボランティアによる活動も活発に行なわれ、公民一体となった事業展開が定着しつつある。こうした取組により、各施設ともに概ね目標を達成した。		各施設では、収蔵資料の特徴をいかした企画展、定番事業や市民ニーズに応じた事業が行なわれた。市民研究員や市民ボランティアによる活動も活発に行なわれ、公民一体の事業展開が定着した感がある。年度末に新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、各施設とも概ね目標を達成した。		感染症予防対策により約2か月間、全施設が閉館となり、再開後も事業の中止や縮小を余儀なくされた。このような状況の中、既存事業の見直しや新規事業の構想と立案、大規模な展示替え、収蔵資料の整理、調査及び研究等に鋭意取り組み、収束後を見据えた有意義な活動を行った。						
	課題	各施設は建築から20年以上経過し、老朽化が進む。地域の歴史資料等を保存し、活用するための施設として機能し続けるよう、必要な改修を計画的に行う。施設の特徴をいかした事業が活発に行なわれているが、施設の連携は十分とは言えず、歴史資産を体系的にいかすことができていない。		地域の貴重な資料等の保存と活用を図るため、公共施設再編計画を注視しつつ、必要な改修を計画的に実施すると共に、保存と活用を担う職員と市民研究員等の充実が課題である。施設の連携が十分でないため、当地域の多様な自然と重層性のある歴史を体系的に発信することができていない。		感染症対策をしながら、施設の特徴をいかした事業を、市民の満足度を保ち実施できるのか課題である。築20年の尖石縄文考古館でも、他の施設と同様に、風雨等に晒される外部はもちろん、内部の様々な箇所に不具合が出ている。大事に至る前の早期発見と計画的な改修が必要である。						
改革・改善	改革・改善内容	施設長寿命化に係る職員の意識を高め、不具合の早期発見に努める。各施設にはハヶ岳等の自然科学関連資料と、自然に抱かれ育まれた人文科学関連資料が収蔵されており、こうした資料を組み合わせた事業展開により、当地域の特徴や魅力の多面的な発信を検討したい。		管理課と連携を図り、不具合の早期発見に努め、必要な改修を行う。講座の内容を充実させ、ホームページやSNSによる情報発信に注力し、新たなファンを取り込み、市民研究員等の増加に努める。各施設の連携を強化し、当地域の自然と歴史を体系的に発信する。		感染症対策をしながら、施設内(屋内)で事業を実施することに限界がある。遺跡や文化財の探訪、天体観測や観望会、動植物の観察会等の既存事業の充実を図ると共に、事業に関わる諸環境を整えていく。インターネットによる更なる情報発信にも努めていきたい。						
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1					
		重点事務事業	2		2		2					
理由	特別史跡尖石遺跡や国宝「土偶」等の観覧を目的に、市内外から多くの来訪者がある。これらの縄文遺産の保存と活用を図り、「縄文の里史跡整備基本計画」の推進拠点であるため、施設の充実を図る必要がある。		尖石縄文考古館は、特別史跡尖石遺跡や国宝「土偶」等の保存と活用を担う施設であり、「縄文の里史跡整備基本計画」の推進拠点である。ことから、当施設の充実を図る必要がある。		尖石縄文考古館は、特別史跡尖石遺跡や国宝「土偶」等の保存と活用を担う施設であり、「縄文の里史跡整備基本計画」の推進拠点である。そのため、当施設のさらなる充実を図る必要がある。							

作成担当者	小池岳史	小池岳史	小池岳史		
最終評価責任者	平出信次	北澤政英	北澤政英		
最終評価年月日	令和元年5月29日	2020年7月10日	2021年5月28日		